

(別表第1の3)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成 19 年 12 月 27 日

【評価実施概要】

事業所番号	3870201286
法人名	社会福祉法人 日親会
事業所名	グループホーム ラ・ファミーユ
所在地	今治市菊間町浜1453-1 (電話) 0898-54-5678
管理者	中村 智
評価機関名	愛媛県社会福祉協議会 利用者支援班
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8-15
訪問調査日	平成 19 年 11 月 12 日
評価確定日	平成 19 年 12 月 28 日

【情報提供票より】 (平成 19 年 10 月 20 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 11 月 18 日
ユニット数	2 ユニット
利用定員数計	18 人
職員数	16 人
常勤	16 人
非常勤	人
常勤換算	16 人

(2) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃（平均月額）	25,000	円	その他の経費（月額）	14,000	円	
敷金	有（ ）円 ○ 無					
保証金の有無 （入居一時金含む）	有（ ）円 ○ 無	有りの場合 償却の有無				
食材料費	朝食		円	昼食		円
	夕食		円	おやつ		円
	または1日当たり		1,000	円		

(3) 利用者の概要 (平成 19 年 10 月 20 日事業所記入)

利用者人数	17 名	男性	4 名	女性	13 名
要介護1	3 名	要介護2	4 名		
要介護3	9 名	要介護4	1 名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 86.1 歳	最低 72 歳	最高 95 歳		

(4) 他に事業所として指定等を受けている事業及び加算

指定	あり	指定介護予防認知症対応型共同生活介護
指定	なし	指定認知症対応型通所介護
届出	なし	短期利用型共同生活介護
加算	あり	医療連携体制加算

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

高台に建つお洒落な洋風のホームである。ホーム名の”ファミーユ”とは「家族」という意味であり、運営者の思いが込められている。管理者及び職員は「笑顔」という理念に沿って利用者の日々の暮らしを支えている。利用者は自分の思い通りにそれぞれのペースで過ごしている。共用空間はとても広く、家庭的な雰囲気づくりがされている。ホームは自治会に加入し、地域の行事にも参加している。さらに地域との交流を深めることにより、地域に根付くことが期待されるホームである。

【質向上への取組状況】

▼ 前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況 (関連項目：外部4)

トイレの場所がよく分かるように表記し、理念の啓発については現在も継続して行っている。鍵をかけないことについては理解しているが、職員と話し合いを重ねながらも安全面を考えて現状維持の施錠が基本となっている。

▼ 今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目：外部4)

今回の自己評価は管理者と経験の長い職員で行っている。質の確保・向上につなげるためにも、職員全員で自己評価に取り組むことが求められる。

▼ 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目：外部4, 5, 6)

運営推進会議を開催したのはまだ2回である。1回目はホームの報告が主な議題となっている。2回目は外出時の出来事が議題となっており、まだ十分な意見交換ができていない。会議の内容についても検討し、参加者の活発な意見が出るような会議とし、サービスの向上に活かせるようになることを期待したい。

▼ 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目：外部7, 8)

家族の苦情(職員の利用者の呼び方についてなど)に対してきちんと対応している。家族の意見は来訪時や、家族会で集まったときにも聞くように心がけている。重要事項説明書にホームの苦情相談窓口については掲載しているが、家族が意見、不満、苦情を第三者に気軽に相談できるように、公的な相談窓口の記載を望みたい。

▼ 日常生活における地域との連携 (関連項目：外部3)

自治会に入会し、地域の行事(祭りなど)には参加している。施設全体の行事には地域住民の参加がある。また中学生の職場体験を受け入れており、利用者も楽しみにしている。さらに、ホーム独自の行事に参加してもらったり、地域の一員として役割を担うなど、地域との交流を深めていくことを期待する。

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目
(評価項目の構成)

Ⅰ.理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

Ⅲ.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

Ⅳ.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

Ⅴ.サービスの成果に関する項目

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
“愛媛県地域密着型サービス評価”

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議の上記入すること。
 - 各自己評価項目について、「取組みの事実」を記入し、取組みたいに※を付け、適宜その内容を記入すること。
 - 「取組みの事実」は必ず記入すること。
- (注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

事業所名

グループホーム ラ・ファミーユ

(ユニット名)

1F

記入者(管理者)

氏 名

中村 智

評価完了日

平成 19 年 10 月 20 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価票

【セル内での改行は「Alt+Enter」です。】

自己評価	外部評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	(自己評価) 「笑顔」と言う言葉を合言葉にして、業務や入居者との関わりをしていくようにしている。 (外部評価) 職員から出された意見から作成した理念であり、ホーム独自の理念となっているが、これから地域の中でホームとしてどう関わって役割を担っていくかについて今後検討していく予定である。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	(自己評価) 認知症を有する入居者が安心かつ尊厳のある生活を送れるようにを基本として職員間で話し合っている。 (外部評価) 理念は玄関及び各ユニットに掲示している。新規の職員も理念については理解しており、管理者と共に利用者の日々の暮らしを支えている。		
3		○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	(自己評価) 都度都度、説明を行っている。基本理念の「笑顔」を各階のホールに掲示している。		

自己評価	外部評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 地域との支えあい					
4		○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	(自己評価) 国道より入り込んでおり、高台にあるため家族以外の来訪者は少ないが、職員は挨拶を心がけている。		
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	(自己評価) 地方祭等への参加を積極的に行っている。 (外部評価) 自治会に入会し、地域の行事（祭りなど）には参加している。施設全体の行事には地域住民の参加がある。また中学生の職場体験を受け入れており、利用者も中学生が来るのを楽しみにしている。	※	ホーム独自の行事に参加してもらったり、自治会や運営推進会議などでも地域の情報を集め、地域の一員として参加したり、役割を担ったりして、さらに地域との交流を深めていくことを期待する。
6		○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	(自己評価) 話し合いは行ったりしているが、実際には地域の暮らしに役立つことは出来ていない。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	(自己評価) 自己評価・外部評価等で問題があった点等は職員間で討議して改善に努めている。 (外部評価) 今回の自己評価は管理者と経験の長い職員で行っており、職員全員では取り組んでいない。管理者は評価の意義については理解しており、外部評価については職員と話し合い、改善に取り組んでいる。	※	自己評価については、ホーム全体のサービスの質の確保・向上につなげるためにも、職員全員で取り組むことを望みたい。

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの 実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議は定期的に行っているが、まだ始めて日も浅いので活用は出来ていない。		
			(外部評価) 利用者や家族、地域住民、市担当者が会議メンバーとなっているが、開催したのはまだ2回である。1回目はホームについての報告等が主な議題となっている。2回目は外出時の出来事についてであり、まだ意見交換も十分でなくこれからの課題である。	※	会議の内容についても検討し、参加者の活発な意見が出るような会議とし、サービスの向上に活かせるようになることを期待する。
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	(自己評価) 市町村職員との他の部分での交流の機会は特には設けていない。		
			(外部評価) 市町村との関係は、合併等の影響もあり、まだ運営推進会議以外では連携があまり取れていない。	※	市担当者にホームの実情や取り組みを伝える機会をつくり、共に取り組んでいくことが望まれる。
10		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	(自己評価) 必要に応じて制度の説明等を行っている。		
11		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 通常のミーティング等の中で、基本的な高齢者虐待に対しての話を行っている。何か気になる点があれば管理者まで報告・相談を行えるようにしている。		

自己評価	外部評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
12		○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約書及び重要事項説明書を説明し、不明な点が出てきた場合はいつでも相談してくださいと話をしている。		
13		○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 面会者等との関わりにより機会を設けている。		
14	7	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	(自己評価) 基本的には不定期ではあるが、家族が来訪した際に状況の説明等を行っている。来訪が少ない家族に関しては電話にて近況を報告している。 (外部評価) 家族の来訪時には利用者の日頃の様子を伝えている。家族が遠方であったりあまり来られない場合には電話で連絡している。金銭管理については毎月請求書と一緒に送っている。写真も不定期ではあるが送っている。		ホームに来る機会が少ない家族に対しては、電話だけでなく写真と一緒に利用者の日頃の様子を書いて送るなどの工夫を望みたい。
15	8	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 面会者等との関わりにより機会を設けている。 (外部評価) 家族の苦情（職員の利用者の呼び方についてなど）に対してきちんと対応している。家族の意見は来訪時や、家族会で集まった時にも聞くように心がけている。重要事項説明書にホーム内の苦情相談窓口については掲載している。	※	家族が意見、不満、苦情を第三者に気軽に相談できるように、公的な相談窓口の記載を望む。

自己評価	外部評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16		○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 毎月1回ミーティングを行い、その場で提案出来る機会を設けている。提案のあった場合は検討して必要なものや活用可能なものに関しては運営面で反映させている。		
17		○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	(自己評価) 昼間の時間帯に職員数を多く確保し、入居者の状況に応じて対応出来るようにしている。		
18	9	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	(自己評価) 不定期ではあるが職員の異動を行っている。その際には職員の半数を交替する形で対応している。 (外部評価) 職員の異動や離職時には、現在勤務している職員が利用者には不安を与えないよう配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
19	10	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 各種研修への参加は自由参加としている。 (外部評価) 研修への参加は個人の自由とはなっているが、研修の機会が多いとはいえない。	※	職員の質の向上のためにも、段階に応じた研修への積極的な参加が望まれる。また法人内でも研修を計画することを期待する。

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
20	11	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 特には行っていない。管理者・職員レベルでの個人的な交流は行っている。 (外部評価) グループホーム連絡協議会には入っているが研修会等に参加することが難しいことが多く、また近くにグループホームもない為、交流の機会が少ない。	※	同業者と交流する機会を積極的につくり、勉強会等を通じて連携を図り、相互にサービスの質の向上に向けて取り組むことを期待する。
21		○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	(自己評価) 管理者が職員の悩み相談を行い、軽減出来るようにしている。		
22		○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	(自己評価) 職員の仕事状況や考え方を把握してアドバイス等を行っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
23		○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 本人には世間話程度の会話から関わり、その後、本人の話し方にあわせて会話をしていくように努めている。		
24		○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 相談があった際はまず、家族が話したい内容を十分に聞き、その上で対象者の生活状況・問題点等を聞くようにしている。		

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25		○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 家族や本人の訴えの中で何が一番困っているのか、どうしたいのかを汲み取り、援助していくように努めている。		
26	12	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(自己評価) 入居当初は施設での生活に馴染んでもらうことを中心に声掛けや見守り等を行うようにしている。 (外部評価) 病院に入院している場合はホーム側から訪問している。利用者や家族がホームに来られる場合は来てもらって、見学や利用者と一緒に過ごしてもらって徐々に馴染めるようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
27	13	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	(自己評価) 入居者に対してはしてあげるではなく、基本的には一緒にすると言う考えで接するように話をしている。 (外部評価) 日々の暮らしの中で利用者の豊かな人生経験を聞くことにより学ぶことが多くあり、互いに支えあう関係づくりに努めている。		
28		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族の都合や家庭状況を加味した上で、相談に乗ったりしている。		

自己評価	外部評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
29		○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	(自己評価) 家族に認知症の症状や病識を知ってもらい、入居者に対する理解を持ってもらうように話をしている。		
30		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) この件に関しては、家族対応をお願いをしている。		
31		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	(自己評価) 入居者同士で仲の良い悪いがあるので状況を把握し対応している。		
32		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	(自己評価) 必要に応じては対応しているが、家族のほう希望しないケースがほとんどである。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
33	14	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 職員数の問題や家族の希望の問題のため、入居者の希望通りの生活を送らせることは出来ていない。 (外部評価) 生活の中で本人や家族の希望を聞いたり、自分から言えない利用者に対しては職員の気づきなどを話し合って把握するよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
34		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 独居生活をしていて入居してくるケースが多いため、家族に確認してもわからないケースが多い。		
35		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	(自己評価) 入居後、1か月程度は入居者自身の生活パターンや癖等を把握する時間に当てている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
36	15	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	(自己評価) 家族や職員の意見を取り入れ、入居者に一番適した方法で介護をしていけるように努めている。 (外部評価) 本人や家族の希望を聞いたり、職員の気づきや意見を入れて話し合い、一人ひとりのその時の状況に合った具体的な介護計画を作成している。		
37	16	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	(自己評価) 最低でも3か月に1回は介護計画の評価と見直しを行い、必要に応じて検討している。 (外部評価) 定期的な見直し及び毎月各ユニットと全体会でも利用者について話し合っている。状況が変わればその都度見直しを行い、現状にあった新たな介護計画を作成している。		

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日日の状況を介護記録に記載してそれを基に話し合いを行い、計画に反映している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
39	17	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	(自己評価) 事業所内で対応出来ることに関しては対応している。ただ、極一部の家族に対しての特別扱いになるような事項に関しては断っている。 (外部評価) かかりつけ医の受診に家族が行けない場合は、受診にかかる送迎サービスを行っている。また医療連携体制加算を受けており、医療面でも適切な対応をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
40		○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	(自己評価) 特には行っていない。		
41		○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	(自己評価) 地域的にも特に必要なサービスもないので利用はない。		
42		○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	(自己評価) 地域包括支援センターとの関わりはない。		

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	18	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 病院に関しては、基本的には家族の希望に合わせている。家族が希望する病院の場合は家族対応で行ってもらっている。 (外部評価) 利用者及び家族の希望するかかりつけ医を受診してもらっている。かかりつけ医への受診は、原則家族に依頼しているが、ホームでの状態は伝え、また受診結果を報告してもらっている。週1回協力医療機関の往診がある。受診記録は個人記録に記載している。		
44		○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	(自己評価) 精神科の医師と連携を図っており、必要に応じては家族の了承を得て通院させている。		
45		○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	(自己評価) 行っていない。		
46		○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	(自己評価) 入院時には基本的な情報を病院に提示し、相談している。		
47	19	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	(自己評価) 当施設では重度化した場合や終末期までの介護は困難であるので、必要に応じて施設の変更をしてもらうようにしている。 (外部評価) 重度化した場合や終末期のあり方についての対応は、指針を入居時に説明し、同意を得ている。受け入れ先が見つかるまではホームで対応することになっている。		

自己評価	外部評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48		○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	(自己評価) 当施設での対応可能な状況を把握して困難な状況である場合は対応手段は検討している。		
49		○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	(自己評価) 必要な状況に応じて検討して情報提供を行っている。情報提供を拒む家族や施設も見受けられるので必ずしも行っているとは言えない。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
50	20	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	(自己評価) 個人情報に流出しないように気をつけている。 (外部評価) 職員の言葉かけや対応は穏やかであり、歯磨き等の誘導もさりげなく行っている。個人記録などの個人情報は事務所で適切に管理している。		
51		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	(自己評価) 入居者の理解力に応じた説明等を行い、対応している。		

自己評価	外部評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
52	21	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 最低ラインの食事の時間や入浴の時間に関しては入居者の都合には合わせていない。他の部分で合わせれる部分はなるべく合わせている。 (外部評価) 職員がホームの1日の流れを決めるのではなく、利用者一人ひとりのペースを守り、その日の希望に合わせて本人のしたいことをするようにしている。食事も本人のペースに合わせている。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
53		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	(自己評価) 理美容に関しては基本的に家族対応としている。こちらで対応の場合は本人家族の希望は聞いていない。		
54	22	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 入居者で出来ることに関してはなるべく手伝ってもらっている。 (外部評価) 職員は、利用者にできることをしてもらいながら食事の準備や後片付けをしている。利用者と職員が同じテーブルで会話を楽しみながら食事している。食事に時間がかかる利用者に対しても、職員は声をかけながら見守っている。		
55		○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	(自己評価) お酒・たばこは基本的に禁止である。飲み物やおやつに関しては、糖尿病による食事制限がある方が多いので入居者同士でのやり取りを禁止している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
56		○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	(自己評価) 入居者ごとに排泄パターンをなるべく把握して対応している。		
57	23	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	(自己評価) 行っていない。理由としては、希望を言う入居者だけがいい思いをして言えない入居者にしわ寄せが行ってしまうため。特に、自分の都合ばかり言う入居者が我が物顔で生活し始めるため。 (外部評価) 入浴の曜日は決まっているが、順番についてはその都度配慮している。また、利用者の体調によっては入浴できない場合もあり、その時には清拭などで対応している。		
58		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	(自己評価) 昼夜逆転の入居者に対しては日中寝ないように声掛けをしているので出来ていない。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	(自己評価) 時間の許せる限り、したいことを出来るように援助している。 (外部評価) 食事づくりや後片付け、洗濯物干し、ゴミ捨てなど、利用者にできることをしてもらっている。利用者はその日の体調に合わせてテレビを見たり、ぬり絵や習字をしたりと、本人のしたいことをして過ごしている。また季節毎の行事（花見など）も楽しみの1つである。		

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 理解はしているが、お金を紛失させて家族から苦情が来るため基本的には持たせていない。家族の了承がある場合に限り、許可している。そのほかの問題としては、お金を持っているとは他の入居者にあげる入居者がいるため、その入居者に関しては禁止している。		
61	25	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	(自己評価) その日の状況にも寄るが、出来る限りは散歩等が出来るようにしている。 (外部評価) 近くに店がない為、日常的に買い物には行けていないが、その日の利用者の状態や希望によって変わることもあるが、散歩には出かけるようにしている。また季節の行事や、地域行事に参加している。玄関前にベンチが置いてあり、金魚の餌やりも利用者の楽しみとなっている。		
62		○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	(自己評価) 外出行事を行って対応している。		
63		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 家族の了承が得られている入居者に関しては対応している。家族の希望により禁止となっている入居者もいる。		
64		○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	(自己評価) 面会時間は設けているがその時間内であれば、いつでも面会可能としている。		

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
65		○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 医学的に必要な場合を除き、きちんと対応している。		
66	26	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	(自己評価) 職員の人員規程の関係もあり、居室の掃きだしの窓には鍵をしている。玄関に関しても同じである。鍵をしないほうがいいということに関しては理解している。 (外部評価) 管理者及び職員は鍵をかけないことの意義について理解はしているが、安全面への配慮からではあるが、玄関から出る時はロックされており、鍵がかかっているのと同じ状態となっている。	※	職員と話し合って、たとえ短時間でも、鍵をかけない工夫を望みたい。
67		○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	(自己評価) 行っている。		
68		○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	(自己評価) 可能なものは自室において置けるようにしている。しかし、刃物類は自殺願望のある方もいるので禁止としている。		
69		○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	(自己評価) 入居者の性格等に応じた対応を行うように努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
70		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	(自己評価) 定期的な訓練は出来ていない。		
71	27	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	(自己評価) 避難訓練を年2回行っている。 (外部評価) 年2回消防署の協力を得て、施設全体で避難訓練を実施している。ホーム内に避難経路を掲示しており、消防署にも直通で連絡できるようになっている。また緊急の連絡方法も掲示しているが、近隣住民の応援協力体制はまだできていない。	※	運営推進会議などで近隣住民の協力を得る働きかけを行い、近隣住民の参加や協力を得た訓練も望みたい。
72		○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	(自己評価) 転倒の危険性や誤嚥の危険性等、入居者の状況に合わせた可能性を家族に説明している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	(自己評価) 日々の生活の中で体調面等の状況を把握し、必要に応じて通院等の対応をしている。		
74		○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 各自職員に把握するように指導はしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75		○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	(自己評価) 基本的な原因等はミーティング等で説明をしている。薬等での対応もしている。		
76		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	(自己評価) 食後に必ず口腔清拭を行うようにしている。自分で出来る人には自分で、出来ない人には介助をしている。		
77	28	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 1日の水分量が足りなくなないように水分補給の時間を確保している。 (外部評価) 近くに店がない為、カロリー計算された献立の食材を配送で取り寄せている。調理は職員が行い、糖尿病の人も含めて利用者全員の摂取カロリーをきちんと把握している。水分摂取量まではチェックしていないが、職員が常に気をつけている。		
78		○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	(自己評価) インフルエンザは予防接種、疥癬は疑いのある際には通院・隔離。		
79		○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	(自己評価) 食中毒防止も兼ねて、食事は作ってから2時間以降は廃棄することとしている。		

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
80		○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	(自己評価) 玄関前には、マガヤやヒナを飼っている。花壇には花を植えたりしている。		
81	29	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 共用空間には季節の壁画を作ったりして展示している。 (外部評価) 共用空間は広く、畳のスペースもある。各部屋の近くにトイレがあり、利用者は間違えることはあまりない。利用者が作った季節の飾りや習字、ぬり絵などが飾られていて、家庭的な雰囲気づくりに気をつけている。利用者はそれぞれ思い思いの場所で過ごしている。		
82		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 共用空間はかなり広いので思い思いの場所で過ごすことが出来るようにしている。		
83	30	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 基本的に居室には使い慣れたものを持って来てもらえるように話をするが、家族は世間体等考えるためか、新しいものを持って来るケースが多い。 (外部評価) 居室はゆったりとしていて、洗面台も取り付けられている。家族の協力を得て使い慣れた家具やテレビ、好みの物など持って来ている人もいるが、新しいものを持ってくる場合には、できるだけその人らしい居室となるよう工夫している。		

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
84		○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	(自己評価) 冷暖房及び床暖房を完備している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 特に行っていない。		
86		○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	(自己評価) 特に行っていない。		
87		○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	(自己評価) 玄関前をゆっくり過ごせる場所にしている。		

(注)

- 1  部分は自己評価と外部評価の共通評価項目。
- 2 全ての自己評価又は外部評価の項目に関し、具体的に記入すること。

V. サービスの成果に関する項目		
項 目	取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (自己評価) ① ほぼ全ての利用者の ② 利用者の2/3くらいの ③ 利用者の1/3くらいの ④ ほとんど掴んでいない	自己意識を表現出来ない入居者もいるため、難しい面がある。
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (自己評価) ① 毎日ある ② 数日に1回程度ある ③ たまにある ④ ほとんどない	業務の空き時間等に一緒にテレビを見たりする時間を設けている。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (自己評価) ① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない	自分のしたいように生活をしている。食事は、必ずみんなで食べるようにしている。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (自己評価) ① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない	出来ることをしてもらうことにより自分の役割を見出している入居者が多い。
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (自己評価) ① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない	施設外への外出に関しては基本的に家族対応としている。施設では外出行事等は行っているが、入居者個々での対応は行っていない。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (自己評価) ① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない	基本的に週1回、病院の医師が往診に来てくれている。
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (自己評価) ① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない	入居者全員に公平なサービスを行うことに重点を置いているので、一部の入居者の我儘は聞かないようにはしている。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができていく (自己評価) ① ほぼ全ての家族と ② 家族の2/3くらいと ③ 家族の1/3くらいと ④ ほとんどできていない	こちらから家族間のことに首を突っ込むのもおかしいので、家族から相談がある際にはきちんと相談にのっている。家族によっては相談すらしない場合もある。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (自己評価) ① ほぼ毎日のように ② 数日に1回程度 ③ たまに ④ ほとんどない	年に数回程度であるが、来られることがある。

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	1 大いに増えている (自己 2 少しずつ増えている 評価) ③ あまり増えていない 4 全くいない	昔からのことがあるので難しい面が多い。
98	職員は、活き活きと働いている	1 ほぼ全ての職員が (自己 ② 職員の2/3くらいが 評価) 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない	職員によって考え方は千差万別なので、仕事に対する価値観も違っており、難しい面もある。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1 ほぼ全ての利用者が (自己 ② 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	帰宅願望が強いが、家族の受け入れが困難である入居者も多いので、満足度はあまり高くない。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1 ほぼ全ての家族等が (自己 ② 家族等の2/3くらいが 評価) 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない	家族の考え方にもよるが、利用料を払っているから、何もかもするのが当たり前と思っている家族もいるので満足していない家族もいる。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

(自己評価)

基本的な考え方としては、毎日毎日何らかのレクリエーションや外出行事を行うような介護の仕方をせずに、入居者がしたい時にレクリエーション等が出来るような体制をとるように心がけている。

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目
(評価項目の構成)

Ⅰ.理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

Ⅲ.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

Ⅳ.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

Ⅴ.サービスの成果に関する項目

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
“愛媛県地域密着型サービス評価”

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議の上記入すること。
 - 各自己評価項目について、「取り組みの事実」を記入し、取組みたいに※を付け、適宜その内容を記入すること。
 - 「取り組みの事実」は必ず記入すること。
- (注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

事業所名 グループホーム ラ・ファミーユ

(ユニット名) 2F

記入者(管理者)

氏 名 中村 智

評価完了日 平成 19 年 10 月 20 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価票

【セル内での改行は「Alt+Enter」です。】

自己評価	外部評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	(自己評価) 「笑顔」と言う言葉を合言葉にして、業務や入居者との関わりをしていくようにしている。 (外部評価) 職員から出された意見から作成した理念であり、ホーム独自の理念となっているが、これから地域の中でホームとしてどう関わって役割を担っていくかについて今後検討していく予定である。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	(自己評価) 認知症を有する入居者が安心かつ尊厳のある生活を送れるようにを基本として職員間で話し合っている。 (外部評価) 理念は玄関及び各ユニットに掲示している。新規の職員も理念については理解しており、管理者と共に利用者の日々の暮らしを支えている。		
3		○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	(自己評価) 都度都度、説明を行っている。基本理念の「笑顔」を各階のホールに掲示している。		

自己評価	外部評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 地域との支えあい					
4		○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	(自己評価) 国道より入り込んでおり、高台にあるため家族以外の来訪者は少ないが、職員は挨拶を心がけている。		
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	(自己評価) 地方祭等への参加を積極的に行っている。 (外部評価) 自治会に入会し、地域の行事（祭りなど）には参加している。施設全体の行事には地域住民の参加がある。また中学生の職場体験を受け入れており、利用者も中学生が来るのを楽しみにしている。	※	ホーム独自の行事に参加してもらったり、自治会や運営推進会議などでも地域の情報を集め、地域の一員として参加したり、役割を担ったりして、さらに地域との交流を深めていくことを期待する。
6		○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	(自己評価) 話し合いは行ったりしているが、実際には地域の暮らしに役立つことは出来ていない。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	(自己評価) 自己評価・外部評価等で問題があった点等は職員間で討議して改善に努めている。 (外部評価) 今回の自己評価は管理者と経験の長い職員で行っており、職員全員では取り組んでいない。管理者は評価の意義については理解しており、外部評価については職員と話し合い、改善に取り組んでいる。	※	自己評価については、ホーム全体のサービスの質の確保・向上につなげるためにも、職員全員で取り組むことを望みたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの 実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議は定期的に行っているが、まだ始めて日も浅いので活用は出来ていない。		
			(外部評価) 利用者や家族、地域住民、市担当者が会議メンバーとなっているが、開催したのはまだ2回である。1回目はホームについての報告等が主な議題となっている。2回目は外出時の出来事についてであり、まだ意見交換も十分でなくこれからの課題である。	※	会議の内容についても検討し、参加者の活発な意見が出るような会議とし、サービスの向上に活かせるようになることを期待する。
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	(自己評価) 市町村職員との他の部分での交流の機会は特には設けていない。		
			(外部評価) 市町村との関係は、合併等の影響もあり、まだ運営推進会議以外では連携があまり取れていない。	※	市担当者にホームの実情や取り組みを伝える機会をつくり、共に取り組んでいくことが望まれる。
10		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	(自己評価) 必要に応じて制度の説明等を行っている。		
11		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 通常のミーティング等の中で、基本的な高齢者虐待に対しての話を行っている。何か気になる点があれば管理者まで報告・相談を行えるようにしている。		

自己評価	外部評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
12		○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約書及び重要事項説明書を説明し、不明な点が出てきた場合はいつでも相談してくださいと話をしている。		
13		○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 面会者等との関わりにより機会を設けている。		
14	7	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	(自己評価) 基本的には不定期ではあるが、家族が来訪した際に状況の説明等を行っている。来訪が少ない家族に関しては電話にて近況を報告している。 (外部評価) 家族の来訪時には利用者の日頃の様子を伝えている。家族が遠方であったりあまり来られない場合には電話で連絡している。金銭管理については毎月請求書と一緒に送っている。写真も不定期ではあるが送っている。	※	ホームに来る機会が少ない家族に対しては、電話だけでなく写真と一緒に利用者の日頃の様子を書いて送るなどの工夫を望みたい。
15	8	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 面会者等との関わりにより機会を設けている。 (外部評価) 家族の苦情（職員の利用者の呼び方についてなど）に対してきちんと対応している。家族の意見は来訪時や、家族会で集まった時にも聞くように心がけている。重要事項説明書にホーム内の苦情相談窓口については掲載している。	※	家族が意見、不満、苦情を第三者に気軽に相談できるように、公的な相談窓口の記載を望む。

自己評価	外部評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16		○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 毎月1回ミーティングを行い、その場で提案出来る機会を設けている。提案のあった場合は検討して必要なものや活用可能なものに関しては運営面で反映させている。		
17		○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	(自己評価) 昼間の時間帯に職員数を多く確保し、入居者の状況に応じて対応出来るようにしている。		
18	9	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	(自己評価) 不定期ではあるが職員の異動を行っている。その際には職員の半数を交替する形で対応している。 (外部評価) 職員の異動や離職時には、現在勤務している職員が利用者には不安を与えないよう配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
19	10	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 各種研修への参加は自由参加としている。 (外部評価) 研修への参加は個人の自由とはなっているが、研修の機会が多いとはいえない。	※	職員の質の向上のためにも、段階に応じた研修への積極的な参加が望まれる。また法人内でも研修を計画することを期待する。

自己評価	外部評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
20	11	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 特には行っていない。管理者・職員レベルでの個人的な交流は行っている。 (外部評価) グループホーム連絡協議会には入っているが研修会等に参加することが難しいことが多く、また近くにグループホームもない為、交流の機会が少ない。	※	同業者と交流する機会を積極的につくり、勉強会等を通じて連携を図り、相互にサービスの質の向上に向けて取り組むことを期待する。
21		○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	(自己評価) 管理者が職員の悩み相談を行い、軽減出来るようにしている。		
22		○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	(自己評価) 職員の仕事状況や考え方を把握してアドバイス等を行っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
23		○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 本人には世間話程度の会話から関わり、その後、本人の話し方にあわせて会話をしていくように努めている。		
24		○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 相談があった際はまず、家族が話したい内容を十分に聞き、その上で対象者の生活状況・問題点等を聞くようにしている。		

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25		○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 家族や本人の訴えの中で何が一番困っているのか、どうしたいのかを汲み取り、援助していくように努めている。		
26	12	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(自己評価) 入居当初は施設での生活に馴染んでもらうことを中心に声掛けや見守り等を行うようにしている。 (外部評価) 病院に入院している場合はホーム側から訪問している。利用者や家族がホームに来られる場合は来てもらって、見学や利用者と一緒に過ごしてもらって徐々に馴染めるようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
27	13	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	(自己評価) 入居者に対してはしてあげるではなく、基本的には一緒にすると言う考えで接するように話をしている。 (外部評価) 日々の暮らしの中で利用者の豊かな人生経験を聞くことにより学ぶことが多くあり、互いに支えあう関係づくりに努めている。		
28		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族の都合や家庭状況を加味した上で、相談に乗ったりしている。		

自己評価	外部評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
29		○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	(自己評価) 家族に認知症の症状や病識を知ってもらい、入居者に対する理解を持ってもらうように話をしている。		
30		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) この件に関しては、家族対応をお願いをしている。		
31		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	(自己評価) 入居者同士で仲の良い悪いがあるので状況を把握し対応している。		
32		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	(自己評価) 必要に応じては対応しているが、家族のほう我希望しないケースがほとんどである。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
33	14	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 職員数の問題や家族の希望の問題のため、入居者の希望通りの生活を送らせることは出来ていない。 (外部評価) 生活の中で本人や家族の希望を聞いたり、自分から言えない利用者に対しては職員の気づきなどを話し合って把握するよう努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
34		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 独居生活をしていて入居してくるケースが多いため、家族に確認してもわからないケースが多い。		
35		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	(自己評価) 入居後、1か月程度は入居者自身の生活パターンや癖等を把握する時間に当てている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
36	15	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	(自己評価) 家族や職員の意見を取り入れ、入居者に一番適した方法で介護をしていけるように努めている。 (外部評価) 本人や家族の希望を聞いたり、職員の気づきや意見を入れて話し合い、一人ひとりのその時の状況に合った具体的な介護計画を作成している。		
37	16	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	(自己評価) 最低でも3か月に1回は介護計画の評価と見直しを行い、必要に応じて検討している。 (外部評価) 定期的な見直し及び毎月各ユニットと全体会でも利用者について話し合っている。状況が変わればその都度見直しを行い、現状にあった新たな介護計画を作成している。		

自己評価	外部評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日日の状況を介護記録に記載してそれを基に話し合いを行い、計画に反映している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
39	17	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	(自己評価) 事業所内で対応出来ることに関しては対応している。ただ、極一部の家族に対しての特別扱いになるような事項に関しては断っている。 (外部評価) かかりつけ医の受診に家族が行けない場合は、受診にかかる送迎サービスを行っている。また医療連携体制加算を受けており、医療面でも適切な対応をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
40		○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	(自己評価) 特には行っていない。		
41		○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	(自己評価) 地域的にも特に必要なサービスもないので利用はない。		
42		○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	(自己評価) 地域包括支援センターとの関わりはない。		

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	18	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 病院に関しては、基本的には家族の希望に合わせている。家族が希望する病院の場合は家族対応で行ってもらっている。 (外部評価) 利用者及び家族の希望するかかりつけ医を受診してもらっている。かかりつけ医への受診は、原則家族に依頼しているが、ホームでの状態は伝え、また受診結果を報告してもらっている。週1回協力医療機関の往診がある。受診記録は個人記録に記載している。		
44		○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	(自己評価) 精神科の医師と連携を図っており、必要に応じては家族の了承を得て通院させている。		
45		○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	(自己評価) 行っていない。		
46		○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	(自己評価) 入院時には基本的な情報を病院に提示し、相談している。		
47	19	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	(自己評価) 当施設では重度化した場合や終末期までの介護は困難であるので、必要に応じて施設の変更をしてもらうようにしている。 (外部評価) 重度化した場合や終末期のあり方についての対応は、指針を入居時に説明し、同意を得ている。受け入れ先が見つかるまではホームで対応することになっている。		

自己評価	外部評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48		○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	(自己評価) 当施設での対応可能な状況を把握して困難な状況である場合は対応手段は検討している。		
49		○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	(自己評価) 必要な状況に応じて検討して情報提供を行っている。情報提供を拒む家族や施設も見受けられるので必ずしも行っているとは言えない。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
50	20	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	(自己評価) 個人情報に流出しないように気をつけている。 (外部評価) 職員の言葉かけや対応は穏やかであり、歯磨き等の誘導もさりげなく行っている。個人記録などの個人情報は事務所で適切に管理している。		
51		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	(自己評価) 入居者の理解力に応じた説明等を行い、対応している。		

自己評価	外部評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
52	21	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 最低ラインの食事の時間や入浴の時間に関しては入居者の都合には合わせていない。他の部分で合わせれる部分はなるべく合わせている。 (外部評価) 職員がホームの1日の流れを決めるのではなく、利用者一人ひとりのペースを守り、その日の希望に合わせて本人のしたいことをするようにしている。食事も本人のペースに合わせている。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
53		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	(自己評価) 理美容に関しては基本的に家族対応としている。こちらで対応の場合は本人家族の希望は聞いていない。		
54	22	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 入居者で出来ることに関してはなるべく手伝ってもらっている。 (外部評価) 職員は、利用者にできることをしてもらいながら食事の準備や後片付けをしている。利用者と職員が同じテーブルで会話を楽しみながら食事している。食事に時間がかかる利用者に対しても、職員は声をかけながら見守っている。		
55		○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	(自己評価) お酒・たばこは基本的に禁止である。飲み物やおやつに関しては、糖尿病による食事制限がある方が多いので入居者同士でのやり取りを禁止している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
56		○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	(自己評価) 入居者ごとに排泄パターンをなるべく把握して対応している。		
57	23	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	(自己評価) 行っていない。理由としては、希望を言う入居者だけが いい思いをして言えない入居者にしわ寄せが行ってしまうため。特に、自分の都合ばかり言う入居者が我が物顔で生活し始めるため。 (外部評価) 入浴の曜日は決まっているが、順番についてはその都度配慮している。また、利用者の体調によっては入浴できない場合もあり、その時には清拭などで対応している。		
58		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	(自己評価) 昼夜逆転の入居者に対しては日中寝ないように声掛けをしているので出来ていない。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	(自己評価) 時間の許せる限り、したいことを出来るように援助している。 (外部評価) 食事づくりや後片付け、洗濯物干し、ゴミ捨てなど、利用者にできることをしてもらっている。利用者はその日の体調に合わせてテレビを見たり、ぬり絵や習字をしたりと、本人のしたいことをして過ごしている。また季節毎の行事（花見など）も楽しみの1つである。		

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 理解はしているが、お金を紛失させて家族から苦情が来るため基本的には持たせていない。家族の了承がある場合に限り、許可している。そのほかの問題としては、お金を持っていると他の入居者にあげる入居者がいるため、その入居者に関しては禁止している。		
61	25	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	(自己評価) その日の状況にも寄るが、出来る限りは散歩等が出来るようにしている。 (外部評価) 近くに店がない為、日常的に買い物には行けていないが、その日の利用者の状態や希望によって変わることもあるが、散歩には出かけるようにしている。また季節の行事や、地域行事に参加している。玄関前にベンチが置いてあり、金魚の餌やりも利用者の楽しみとなっている。		
62		○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	(自己評価) 外出行事を行って対応している。		
63		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 家族の了承が得られている入居者に関しては対応している。家族の希望により禁止となっている入居者もいる。		
64		○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	(自己評価) 面会時間は設けているがその時間内であれば、いつでも面会可能としている。		

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
65		○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 医学的に必要な場合を除き、きちんと対応している。		
66	26	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	(自己評価) 職員の人員規程の関係もあり、居室の掃きだしの窓には鍵をしている。玄関に関しても同じである。鍵をしないほうがいいと言うことに関しては理解している。 (外部評価) 管理者及び職員は鍵をかけないことの意義について理解はしているが、安全面への配慮からではあるが、玄関から出る時はロックされており、鍵がかかっているのと同じ状態となっている。	※	職員と話し合って、たとえ短時間でも、鍵をかけない工夫を望みたい。
67		○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	(自己評価) 行っている。		
68		○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	(自己評価) 可能なものは自室において置けるようにしている。しかし、刃物類は自殺願望のある方もいるので禁止としている。		
69		○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	(自己評価) 入居者の性格等に応じた対応を行うように努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
70		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	(自己評価) 定期的な訓練は出来ていない。		
71	27	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	(自己評価) 避難訓練を年2回行っている。 (外部評価) 年2回消防署の協力を得て、施設全体で避難訓練を実施している。ホーム内に避難経路を掲示しており、消防署にも直通で連絡できるようになっている。また緊急の連絡方法も掲示しているが、近隣住民の応援協力体制はまだできていない。	※	運営推進会議などで近隣住民の協力を得る働きかけを行い、近隣住民の参加や協力を得た訓練も望みたい。
72		○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	(自己評価) 転倒の危険性や誤嚥の危険性等、入居者の状況に合わせた可能性を家族に説明している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	(自己評価) 日々の生活の中で体調面等の状況を把握し、必要に応じて通院等の対応をしている。		
74		○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 各自職員に把握するように指導はしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75		○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	(自己評価) 基本的な原因等はミーティング等で説明をしている。薬等での対応もしている。		
76		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	(自己評価) 食後に必ず口腔清拭を行うようにしている。自分で出来る人には自分で、出来ない人には介助をしている。		
77	28	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 1日の水分量が足りなくなないように水分補給の時間を確保している。 (外部評価) 近くに店がない為、カロリー計算された献立の食材を配送で取り寄せている。調理は職員が行い、糖尿病の人も含めて利用者全員の摂取カロリーをきちんと把握している。水分摂取量まではチェックしていないが、職員が常に気をつけている。		
78		○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	(自己評価) インフルエンザは予防接種、疥癬は疑いのある際には通院・隔離。		
79		○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	(自己評価) 食中毒防止も兼ねて、食事は作ってから2時間以降は廃棄することとしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
80		○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	(自己評価) 玄関前には、マガヤやヒナを飼っている。花壇には花を植えたりしている。		
81	29	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 共用空間には季節の壁画を作ったりして展示している。 (外部評価) 共用空間は広く、畳のスペースもある。各部屋の近くにトイレがあり、利用者は間違えることはあまりない。利用者が作った季節の飾りや習字、ぬり絵などが飾られていて、家庭的な雰囲気づくりに気をつけている。利用者はそれぞれ思い思いの場所で過ごしている。		
82		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 共用空間はかなり広いので思い思いの場所で過ごすことが出来るようにしている。		
83	30	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 基本的に居室には使い慣れたものを持って来てもらえるように話をするが、家族は世間体等考えるためか、新しいものを持って来るケースが多い。 (外部評価) 居室はゆったりとしていて、洗面台も取り付けられている。家族の協力を得て使い慣れた家具やテレビ、好みの物など持って来ている人もいるが、新しいものを持ってくる場合には、できるだけその人らしい居室となるよう工夫している。		

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
84		○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	(自己評価) 冷暖房及び床暖房を完備している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 特に行っていない。		
86		○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	(自己評価) 特に行っていない。		
87		○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	(自己評価) 玄関前をゆっくり過ごせる場所にしている。		

(注)

- 1  部分は自己評価と外部評価の共通評価項目。
- 2 全ての自己評価又は外部評価の項目に関し、具体的に記入すること。

V. サービスの成果に関する項目		
項 目	取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (自己評価) ① ほぼ全ての利用者の ② 利用者の2/3くらいの ③ 利用者の1/3くらいの ④ ほとんど掴んでいない	自己意識を表現出来ない入居者もいるため、難しい面がある。
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (自己評価) ① 毎日ある ② 数日に1回程度ある ③ たまにある ④ ほとんどない	業務の空き時間等に一緒にテレビを見たりする時間を設けている。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (自己評価) ① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない	自分のしたいように生活をしている。食事は、必ずみんなで食べるようにしている。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (自己評価) ① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない	出来ることをしてもらうことにより自分の役割を見出している入居者が多い。
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (自己評価) ① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない	施設外への外出に関しては基本的に家族対応としている。施設では外出行事等は行っているが、入居者個々での対応は行っていない。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (自己評価) ① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない	基本的に週1回、病院の医師が往診に来てくれている。
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (自己評価) ① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない	入居者全員に公平なサービスを行うことに重点を置いているので、一部の入居者の我儘は聞かないようにはしている。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができていく (自己評価) ① ほぼ全ての家族と ② 家族の2/3くらいと ③ 家族の1/3くらいと ④ ほとんどできていない	こちらから家族間のことに首を突っ込むのもおかしいので、家族から相談がある際にはきちんと相談にのっている。家族によっては相談すらしない場合もある。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (自己評価) ① ほぼ毎日のように ② 数日に1回程度 ③ たまに ④ ほとんどない	年に数回程度であるが、来られることがある。

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	1 大いに増えている (自己 2 少しずつ増えている 評価) ③ あまり増えていない 4 全くいない	昔からのことがあるので難しい面が多い。
98	職員は、活き活きと働いている	1 ほぼ全ての職員が (自己 ② 職員の2/3くらいが 評価) 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない	職員によって考え方は千差万別なので、仕事に対する価値観も違っており、難しい面もある。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1 ほぼ全ての利用者が (自己 ② 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	帰宅願望が強いが、家族の受け入れが困難である入居者も多いので、満足度はあまり高くない。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1 ほぼ全ての家族等が (自己 ② 家族等の2/3くらいが 評価) 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない	家族の考え方にもよるが、利用料を払っているから、何もかもするのが当たり前と思っている家族もいるので満足していない家族もいる。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

(自己評価)

基本的な考え方としては、毎日毎日何らかのレクリエーションや外出行事を行うような介護の仕方をせずに、入居者がしたい時にレクリエーション等が出来るような体制をとるように心がけている。